



2026年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月15日

上場会社名 株式会社Gunosy 上場取引所 東
コード番号 6047 URL <https://gunosy.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西尾 健太郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 最高財務責任者 (氏名) 岩瀬 辰幸 (TEL) (03)5953-8030
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年5月期第1四半期の連結業績（2025年6月1日～2025年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年5月期第1四半期	1,678	6.7	39	△76.6	10	—	△24	—
2025年5月期第1四半期	1,573	△16.3	170	—	△64	—	△222	—

(注) 包括利益 2026年5月期第1四半期 △26百万円 (—%) 2025年5月期第1四半期 △121百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年5月期第1四半期	△1.04	—
2025年5月期第1四半期	△9.27	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
2026年5月期第1四半期	12,317	—	10,708	—	86.1
2025年5月期	13,222	—	11,283	—	84.4

(参考) 自己資本 2026年5月期第1四半期 10,600百万円 2025年5月期 11,161百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年5月期	—	0.00	—	18.30	18.30
2026年5月期	—	—	—	—	—
2026年5月期（予想）	—	0.00	—	18.30	18.30

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年5月期の連結業績予想（2025年6月1日～2026年5月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,890	29.4	780	35.5	770	136.6	430	444.3	18.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年5月期1Q	24,237,774株	2025年5月期	24,237,774株
② 期末自己株式数	2026年5月期1Q	345,445株	2025年5月期	212,920株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年5月期1Q	23,954,702株	2025年5月期1Q	23,961,999株

(注) 自己株式数については、株式付与ESOP信託口が所有する当社株式 (2025年5月期 : 73,667株、2026年5月期1Q : 61,692株) を含めて記載しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループをとりまく経営環境につきましては、国内経済は緩やかな回復が続く一方、物価や為替の変動、海外経済の不確実性などから、先行きは依然として不透明な状況にあります。

広告市場については、インターネット分野を中心に拡大が続き、動画やソーシャルメディアをはじめとする新しい領域への需要シフトが進行しています。

ゲーム市場については国内・海外のいずれにおいてもモバイルゲームを中心に一定の市場規模を維持しているものの、利用者の嗜好や余暇の使い方について多様化が進んでいます。

2026年5月期より、これまでの事業ドメインを基軸としたポートフォリオ区分を見直し、キャッシュ創出力と成長性を軸とした新たなセグメント区分へと変更しております。当期における各セグメントの取組み状況は以下のとおりです。

メディア事業：当社が運営する「グノシー」及び「auサービスToday」、並びに株式会社ゲームエイト（以下、ゲームエイト）が運営する国内外のメディア等、当社グループの基盤として安定的にキャッシュを創出する事業群で構成されます。

メディア事業においては当第1四半期連結累計期間の事業進捗は、計画に対して想定の範囲内で推移しております。引き続き厳格なコストコントロールを実施するとともに、ユーザー数の安定的な推移を確保することで、フリーキャッシュフロー（FCF）の創出及び、更なる利益創出を進めてまいります。

Gホールディングス事業：株式会社Gホールディングスが運営する、アニメ・漫画など既存のIPを活用したソーシャルゲームのパブリッシング等により、IPの価値を最大化する事業で構成されます。

Gホールディングス事業においては、新規タイトルのリリースに加え、今後のタイトルリリースに向けた準備に注力いたしました。引き続きPMI（ポスト・マージャー・インテグレーション）を推進し、各タイトルの収益性を厳格に管理することで、のれん償却を含めた営業利益においてグループ業績への貢献を目指してまいります。

新規事業：ゲームエイトのStore and Commerce事業（以下、SC事業）や、当社が運営する「IR Hub」等を含み、中長期的に大きな成長が見込まれる事業群で構成されます。

SC事業において2025年12月18日のスマホソフトウェア競争促進法の全面施行を見据え、タイトル獲得の拡大を進めてまいります。IR Hubにつきましては、英文開示対応に対する需要を取り込むべく営業体制を強化するとともに、機能改善を通じて利便性の向上に取り組んでまいります。

当第1四半期連結累計期間において、売上高1,678百万円（前年同四半期比6.7%増）、経常利益10百万円（前年同四半期は経常損失64百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失24百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失222百万円）となりました。なお、主な変動要因は、後述のセグメント別の業績に詳述のとおりとなっております。

セグメント別の業績は次のとおりです。

①メディア事業

メディア事業の売上高は1,473百万円（前年同四半期比6.1%減）、セグメント利益は327百万円（前年同四半期比10.0%減）となりました。連結子会社ゲームエイトが運営するゲーム攻略メディアについては、大型タイトルのリリースはなかったものの、安定的に推移いたしました。当社が運営する「グノシー」については、広告宣伝投資を厳格にコントロールする中でも、ユーザー数は一定の範囲内で安定的に推移いたしました。

②Gホールディングス事業

Gホールディングス事業の売上高は201百万円、セグメント損失は73百万円となりました。当第1四半期連結累計期間においては「おそ松さん六喜六憂ドタバタバトル」のリリースに加え、今後予定している人気IPを活用した複数のタイトル展開に向けた準備に注力いたしました。

③新規事業

新規事業の売上高は3百万円（前年同四半期比21.6%減）、セグメント損失は54百万円（前年同四半期はセグメント損失60百万円）となりました。SC事業においては、スマホソフトウェア競争促進法の施行を控え、新規タイトルの獲得に注力いたしました。IR Hub事業においては、適時開示資料の英訳義務化を背景に、引き続き顧客基盤の拡大とプロダクトの機能改善を進めました。

なお、当社の戦略投資先であるslice Small Finance Bank Ltd. については、預金額は年次約2.7倍ペースで成長し、AUMについても年次1.3倍ペースで拡大しており、合併以降も高い成長性を維持しております。当社としては引き続きアセットマネジメントに注力してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて905百万円減少し、12,317百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少（前連結会計年度末比629百万円の減少）、売掛金の減少（前連結会計年度末比153百万円の減少）であります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べて330百万円減少し、1,608百万円となりました。主な要因は、長期借入金の減少（前連結会計年度末比225百万円の減少）であります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて574百万円減少し、10,708百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少（前連結会計年度末比465百万円の減少）あります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年7月14日に公表いたしました2026年5月期通期の連結業績予想に変更はありません。下期のコストコントロールと新規事業の収支改善により通期計画は達成可能な範囲で推移しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,369	4,739
売掛金	926	772
その他	939	787
流動資産合計	7,235	6,299
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7	15
その他（純額）	6	6
有形固定資産合計	13	22
無形固定資産		
のれん	720	694
その他	47	67
無形固定資産合計	767	762
投資その他の資産		
投資有価証券	5,049	5,032
繰延税金資産	94	125
その他	62	74
投資その他の資産合計	5,206	5,233
固定資産合計	5,987	6,017
資産合計	13,222	12,317

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	337	286
未払金	307	356
未払法人税等	85	52
1年内返済予定の長期借入金	41	—
前受金	612	608
株式給付引当金	16	3
賞与引当金	—	9
その他	172	128
流動負債合計	1,573	1,445
固定負債		
長期借入金	225	—
株式給付引当金	1	5
繰延税金負債	137	157
その他	—	0
固定負債合計	364	162
負債合計	1,938	1,608
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,099	4,099
資本剰余金	4,099	4,099
利益剰余金	2,919	2,453
自己株式	△220	△318
株主資本合計	10,896	10,333
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	305	281
繰延ヘッジ損益	△40	△14
その他の包括利益累計額合計	265	266
新株予約権	66	56
非支配株主持分	55	52
純資産合計	11,283	10,708
負債純資産合計	13,222	12,317

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)
売上高	1,573	1,678
売上原価	840	902
売上総利益	733	775
販売費及び一般管理費	562	735
営業利益	170	39
営業外収益		
受取利息	25	13
為替差益	5	—
その他	0	2
営業外収益合計	31	15
営業外費用		
支払利息	—	1
支払手数料	1	2
投資事業組合運用損	4	2
持分法による投資損失	261	—
為替差損	—	38
その他	0	—
営業外費用合計	266	44
経常利益又は経常損失(△)	△64	10
特別利益		
新株予約権戻入益	9	12
特別利益合計	9	12
特別損失		
投資有価証券評価損	104	—
特別損失合計	104	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△159	23
法人税、住民税及び事業税	41	64
法人税等調整額	20	△13
法人税等合計	62	51
四半期純損失(△)	△222	△27
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△3
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△222	△24

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)
四半期純損失(△)	△222	△27
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△23
繰延ヘッジ損益	△74	25
持分法適用会社に対する持分相当額	175	—
その他の包括利益合計	100	1
四半期包括利益	△121	△26
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△121	△23
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2024年6月1日至2024年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	メディア事業	Gホールディング ガス事業	新規事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,569	—	4	1,573	0	1,573
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,569	—	4	1,573	0	1,573
セグメント利益 又は損失(△)	364	—	△60	304	△133	170

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△133百万円は、主に各報告セグメントに配賦されていない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2025年6月1日至2025年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	メディア事業	Gホールディング ガス事業	新規事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,473	201	3	1,678	0	1,678
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	0	0	△0	—
計	1,473	201	3	1,678	△0	1,678
セグメント利益 又は損失(△)	327	△73	△54	200	△160	39

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△160百万円は、主に各報告セグメントに配賦されていない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、当社グループの報告セグメントは「メディア事業」のみであり、その他の事業セグメントは重要性が乏しかったことから、セグメント情報の記載を省略しておりました。

しかしながら、前連結会計年度において既存事業が安定的に黒字化を達成したこと、及びM&Aの進展があったことを踏まえ、当第1四半期連結累計期間より、事業活動の実態をよりの確に反映させることを目的として、キャッシュ創出力及び成長性を基準としたセグメント区分へ変更することといたしました。

具体的には、報告セグメントを以下の3つに区分いたします。

- ①「メディア事業」：当社が運営する「グノシー」及び「auサービスToday」、並びにゲームエイトが運営する国内外のメディア等、当社グループの基盤として安定的にキャッシュを創出する事業群で構成されます。
- ②「Gホールディングス事業」：株式会社Gホールディングスが運営する、アニメ・漫画など既存のIPを活用したソーシャルゲームのパブリッシング等により、IPの価値を最大化する事業で構成されます。
- ③「新規事業」：ゲームエイトのSC事業や、当社が運営する「IR Hub」等を含み、中長期的に大きな成長が見込まれる事業群で構成されます。

なお、当社は上記各事業とは別に、slice Small Finance Bank Ltd.を筆頭とした投資活動も行っております。これらの投資活動は、当社の中長期における高成長オプションとして、将来的に経営成績に重要な影響を与える可能性がございますが、現時点においては収益計上が非継続的であり、会計基準に定められる独立した事業セグメントの要件を満たさないため、報告セグメントとしては認識しておらず、当該投資活動に係る資産及び損益については、調整額として表示いたします。

これに伴い、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報につきましては、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分決定及び業績評価をするために、定期的に検討を行う事業セグメントを基礎としております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)
減価償却費	0百万円	4百万円
のれんの償却額	－百万円	25百万円